

# 明治大学の教育

Education of  
Meiji  
University

## リバティアカデミーから、 新しい社会人の学びを創造する 『女性のためのスマートキャリアプログラム』

2015年度に開設された、リバティアカデミー「女性のためのスマートキャリアプログラム」が、順調にその役目を果たしている。本誌第67号（2015年7月）で、講座開設のねらいをお伝えしたが、本号では今日に至るまでの状況を紹介する。

### 女性の学びの動機を支える 講座の意義

「女性のためのスマートキャリアプログラム」は、履修証明制度による半年間集

中のビジネスプログラムである。女性の仕事復帰を支える「昼間コース」と、半年遅れで開講した仕事をしながら学ぶ女性向けの「夜間・土曜主コース」があり、開講5年目の今春もほぼ定員通り、昼間コース9期生36人、夜間・土曜主コース8期生30人が学んでいる。過去4年半の両コース合計の履修者数は399人となる。

### PROFILE



小川 智由 Tomoyoshi Ogawa

商学部教授 リバティアカデミー『女性のためのスマートキャリアプログラム』コーディネーター

1952年 千葉県生まれ  
1975年 明治大学商学部卒業  
1982年 明治大学大学院商学研究科博士後期課程単位修得  
明治大学商学部兼任講師(1982-2004)、文京女子短期大学専任講師・助教授(1982-1992)、文京女子大学経営学部助教授・教授(1992-2004)を経て、2004年から現職

#### 主な著書(共著書・分担執筆)

『マーケティング論』(建帛社)、『新版・現代のマーケティング』(八千代出版)、『多頻度小口配送』(同友館)、『Japanese Distribution System』(Probus)、『Japanese Distribution Strategy』(Thomson Learning) 他

#### 所属学会

日本商業学会、日本物流学会、日本経営診断学会、組織学会

のビジネスを本格的に手伝いたいという受講動機も見受けられる。夜間・土曜主

コースの履修者には、責任を伴う仕事も目指したい、いずれ管理職になることを想定するという受講動機が比較的多いが、企業派遣も増えており、自ら勤務先と交渉して会社から派遣されたという方もおられる。修了後、専門職大学院のグローバル・ビジネス研究科に入学した受講生も出ている。

大学までが学びの期間、卒業後は社会で仕事一筋という図式は完全に崩れ、学部の学生も産学連携でビジネスを学び、社会人にも新たな理論やマネジメント技法を柔軟に大学で身に付ける機会があるというのが、今のビジネス教育の姿である。



### 社会からの意外な反響

開講初年度の12月、担当事務局である社会連携事務室に思わぬ知らせが飛び込んだ。一億総活躍担当の加藤勝信大臣(当時)が、プログラムの視察に訪れ、受講生とのインタビューも実施した。社会人の学び直し、女性の活躍推進などが社会的なキーワードになったこともあり、その後内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省などからの視察要請が相次いだ。

2017年に新設された文科省「職業実践力育成プログラム」制度で最初の認定プログラムとなり、厚労省の「専門実践教育訓練」の指定講座となった。その一連のプロセスは行政の縦割りとは無縁

の、省庁間の担当職員相互の連携と情報交換のきめ細かさが印象的だった。

全国の大学、シンクタンクからも、多くの問い合わせや訪問を受けたが、視察の要請は海外にも広がり、2016年にはフランスからOEC Dの社会人教育担当者、また2018年にはアメリカ労働省の一行が視察に訪れた。明治大学における教育の新しい一側面が、グローバルな注目を集めたわけである。

### 5年目を迎えて広がる 受講生のネットワーク

初年度には、新聞、雑誌、テレビなどメディアの取材が相次ぎ、その報道が有効なパブリシティ(宣伝)となった。2年目以降は、本プログラムを修了した元受講生に薦められてという受講申込みもかなり多い。充実した講座内容と学びの成果に満足した受講生からの薦めには説得力がある。

30人前後の受講生が連日、正味5か月間にわたって継続して学ぶことから生まれる絆の強さも当初の想像を超えた成果である。各人の学生時代の専門は文系、理系を



## 「女性のためのスマートキャリアプログラム」修了生の声

### 昼間コース（2期生） 神戸 さえ

Atelier Weizen Sae 主宰



「女性のためのスマートキャリアプログラム」(スマキャリ)を知ったのは、長女が明治大学に入学し、保護者に送付される「明大広報」での紹介記事を目にしたことがきっかけです。まさに「娘も明治、私も明治」という当時のスマキャリのキャッチコピーと同じ状況でした。今から4年前のことですが、ちょうど人生半世紀を迎える前に、何か次のステージへ上がるためのきっかけが欲しかったのかもしれません。子育て中心の20年のブランクを経て、社会人として自分がなれる「仕事」を持ちたいという想いがマックスになっていました。久しぶりの大学生活は、毎日が新鮮で、初心に戻って学びました。50代からの起業だなんて、今どきのワーママから見たら、なんと悠長なことと思われることでしょう。

### 夜間・土曜主コース（5期生） 加藤 道恵

株式会社ジュン  
経営企画室



将来のキャリアアップを目指し、ビジネスに必要な知識を体系的に学びながら、経験・スキルの棚卸しと、今後について内省する時間を持ちたいと思い、受講を決心しました。必須科目である「金融・財務」ではマクロの視点を持つことができ、「実践コンサルティングプロジェクト」ではフィールドワーク・プロジェクト運営・各種フレームワークを用いた提案プレゼンテーションといった実践的な経験が積み、「ビジョンロードマップ」はキャリア形成だけにとどまらず、家族や社会との関係構築といった切り口から、ライフスタイルを熟考する時

でも、人生100年時代に、学びは一生、いつからでも遅すぎることではないのです。スマキャリは、私にとって、ささやかな挑戦であり、人生の大きな転機となりました。マーケティング理論を実践的に学ぶゼミ形式のクラスをはじめ、マネジメント、コミュニケーション、ファッションに至るまで、用意周到で懇切丁寧なプログラムは、短期集中でありながら、非常に有意義でした。さらに、共に学ぶ仲間との出会いも貴重でした。切磋琢磨して、今も互いの活躍を応援し、励まし合い、近況報告をする進捗発表会などを行っています。

私自身は、昨年5月に地元小田原の早川駅前で「Atelier Weizen Sae」という小さなパン屋を開業しました。「地域貢献型起業」を目指し、地産地消・ローカルファーストな店づくり、また地域の繋がりを軸にマルシェを主催しています。今後の展開としては、地方創生をミッションに、自然+食+アートを結びつけたイベントを開催し、ますますワクワクすることを楽しみながら、「道楽」を追求したいと考えています。

間となりました。さまざまな業界で働く、幅広いキャリアを持った、志を同じくする仲間達との半年間は、日頃会社では得ることができない各種の刺激を受ける毎日でありました。なお、卒業後はファッションの世界で60年の歴史を持ち、現在ではFashion、Food、Fitnessと3つの事業を展開する株式会社ジュンに転職し、経営企画室にて社長秘書を務めながら事業部運営に一部参画するなど、新しいチャレンジの毎日を過ごしております。また今期の「実践コンサルティングプロジェクト」では、弊社をテーマ企業として採用いただき、自社の課題を樋渡先生・受講生の皆様と一緒に検討することを楽しみにしているところです。スマキャリのおかげで新しいキャリアを踏み出すきっかけを得て、卒業後もつながりを持たせていただくことで、今ではスマキャリが存在自体が自身の大きな財産と感じております。



いる。今年からは、例えば情報分野に強い修了生から現役生への1対1リテラシー講習会、キャリアプランナーの資格を取得した修了生による現役生の就業支援などの自主的な活動もスタートした。

問わずさまざまであり、卒業後も各分野で活躍した経験を有する。学ぶ動機や意欲が似通っていることもあり、まさに異業種交流としての強いつながりが生まれ、それは受講生の一生の財産となりうる。開講2年目から受講生の縦のつながりが始まった。Facebookによる修了生と現役生の情報交換を皮切りに、一昨年から秋の「明治大学ホームカミングデー」に各期の修了生が協力してブースを出展し、起業した方々の事業や商品の紹介、来訪者へのプログラムの説明や受講の薦め、あるいは受講生相互のネットワーク構築の場として活用している。今年からは、例えば情報分野に強い修了生から現役生への1対1リテラシー講習会、キャリアプランナーの資格を取得した修了生による現役生の就業支援などの自主的な活動もスタートした。

自ら「社会人女性の学び直し」ポータルサイトを事業として立ち上げ、そこで明治大学の講座も積極的に取り上げてくれている修了生も出ている。いずれも女性ならではの巻き込む力、ネットワーク力の現れであり、学びの成果の大学への還元という貴重な支援である。

**さらなる発展に向けて**

昼間の受講生からは、留守にすることによる家事への心配も杞憂に終わり、小中学生の子どもの自立や、夫からの家事を含む予想以上の協力というエピソードが聞こえる。ご自身が講座を受講し始めてから、就職活動中の大学生の娘や夫などと、家族での経済やビジネスの話が弾むようになったという声も聞かれる。おしなべて、家族との絆が深まったという意見が多い。夜間・土曜主コースの方々へは、企業からのより一層の支援を期待したい。

履修証明制度で、社会的に大きな価値を提供する本プログラムは、受講生募集、応募者面接、履修相談、出欠管理、修了レポート、就職支援、OGとの連携など、事

務作業が他のビジネスプログラムと異なり膨大で多岐にわたる。学部事務室にも似た一連の業務への組織的な体制を整えつつ、今年から最低時間数が半分の60時間以上となった履修証明制度をさらに有効に活用した、社会からの要請による新たな領域のビジネスプログラムの開発や、大学院レベルの高度な内容の講座拡充が、明治大学として次に挑戦すべき大学教育の課題となる。



修了式の様子